

リード芦屋新聞

発行元

芦屋市立
あし活ターシャ
市民センター
リードあし

記事未
空本寺

人との関係を大切に

小野山純子（おのやま・じゅんこ）さんは、昔アナウンサーだったのが、今は対面やオンラインを使いながら声屋で話し方教室をしている。リードあしやで開かれた「こどもひろば あんあーと」で、小野山さんの話し方教室に参加した子どもは、はじめ緊張してあまり話せていなかったが、練習していくうちに上手くなり、最後には、堂々とした姿でハキハキと大勢の人の前で話せるようになっていた。小野山さんが語った。



話し方教室の小野山さん

話し方教室では、綺麗な声で綺麗に話すことを目的とせずに、人との関わり方を学べるような内容になっています。人との関係作りでは、友達の作り方や友達との会話を弾ませるコツ、自分が言いづらいことをどのように伝えれば、自分の気持ちを率直に伝えることができるのかなどのレッスンをしています。

他にも平日には、研修講師として全国各地を飛び回り、社会人の人に職場でどのように人と関われば良い

話し方のレッスンを通して、子どもたちが変化してくれるのをとても嬉しく感じています。

言葉とともに、態度で

安心感を与えるために

子どもたちと関わる時には、子どもがどのように感じているのか、どのような人と話す時も私が一番大切にしていることです。

この活動を通して、子どもたちは、自分のことを声に出したりすることが好きなんだと感じました。だから、その楽しさを味わい、自分自身を表現でき、挑戦できる場所を作ることが大切だと思います。大人が子供の声を聴けるようになってほしいです。子どもが「できた」と思う体験が多くなればと思います。

そして、これからの街作りやイベントに子どもの声他にも相手に安心感を与えることを大切にしています。



のかについてレッスンをしています。この活動を始めたきっかけは、私自身が学生時代に人前で話すことが苦手だったから。自分と同じように困っている人がいるのであれば、私の解決策を伝えることで、そのような人をな

らです。私は会社に入り、研修係になってから人前で話さないといけない状況になり、話し方のトレーニングをしたことよって少しずつ自分の意見を伝えられるようになりました。自分の意見を伝えられるようになったきっかけは、自分の声が伝

わる楽しさを知ったこと、自分が話したことによって人が喜んでくれる時の感動を味わえるようになったことだと思っています。

この教室には障害のある人も通っていて、障害のある人は、家族の人以外に関わるきっかけがなかったり、話す機会がなかったりしてしまっています。しかし、この教室で話すことで、気持ちも前向きになり、外に対する興味が芽生えました。いろいろなことに興味を示すようになり、人とも話せるように。他にも、授業中に発表ができない子どもが大きな声で発表できるようになりました。

子どもの意見を反映できる芦屋に

この活動を通して、子どもたちは、自分のことを声に出したりすることが好きなんだと感じました。だから、その楽しさを味わい、自分自身を表現でき、挑戦できる場所を作ることが大切だと思います。大人が子供の声を聴けるようになってほしいです。子どもが「できた」と思う体験が多くなればと思います。

そして、これからの街作りやイベントに子どもの声他にも相手に安心感を与えることを大切にしています。

話し方のレッスンを通して、子どもたちが変化してくれるのをとても嬉しく感じています。